

第1章 調査の概要

1 調査の目的

市民の食育、健康増進、歯及び口腔の健康づくりに関する意識等を調査し、現行の第2次食育推進計画、健康増進計画（後期）、歯及び口腔の健康づくり推進計画の評価と、次期計画の策定に必要な現状把握と課題抽出の基礎資料とするために行った。

2 調査対象

(1) 調査地域 茅ヶ崎市全域

(2) 調査対象者（標本数）

ア. 15歳以上 . . . 5,500人

① 15～18歳 . . . 500人
② 19歳以上 . . . 5,000人

イ. 小・中学生 . . . 1,500人

(3) 抽出方法

ア. 15歳以上 . . . 住民基本台帳からの無作為抽出

イ. 小・中学生 . . . 市内小・中学校から学年ごとに学級を無作為抽出

(4) 調査方法

ア. 15歳以上 . . . 郵送法（郵送配布－郵送回収）

イ. 小・中学生 . . . 学校配布・回収（逕送配布－逕送回収）

(5) 調査実施期間

ア. 15歳以上 . . . 令和元年11月13日～令和元年12月6日

イ. 小・中学生 . . . 令和元年11月13日～令和元年12月13日

3 回収状況

	配布数	回収数	回収率
ア. 15歳以上	5,500	2,435	44.3%
イ. 小・中学生	1,500	1,371	91.4%

4 標本誤差

標本誤差は、回答者数と得られた結果の比率によって異なるが、層化二段無作為抽出法による場合の誤差（信頼度 95%）は次の式によって得られる。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

N = 母集団数

n = 比率算出の基数

P = 回答の比率

次に、本調査の標本誤差の早見表をあげる。

回答比率 (P) n	90%または 10%程度	80%または 20%程度	70%または 30%程度	60%または 40%程度	50%程度
5,000	± 1.20%	± 1.60%	± 1.83%	± 1.96%	± 2.00%
4,000	± 1.34%	± 1.79%	± 2.05%	± 2.19%	± 2.24%
3,000	± 1.55%	± 2.07%	± 2.37%	± 2.53%	± 2.58%
2,435	± 1.72%	± 2.29%	± 2.63%	± 2.81%	± 2.87%
2,000	± 1.90%	± 2.53%	± 2.90%	± 3.10%	± 3.16%
1,500	± 2.19%	± 2.92%	± 3.35%	± 3.58%	± 3.65%
1,000	± 2.68%	± 3.58%	± 4.10%	± 4.38%	± 4.47%
500	± 3.79%	± 5.06%	± 5.80%	± 6.20%	± 6.32%
250	± 5.37%	± 7.16%	± 8.20%	± 8.76%	± 8.94%
100	± 8.49%	± 11.31%	± 12.96%	± 13.86%	± 14.14%
50	± 12.00%	± 16.00%	± 18.33%	± 19.60%	± 20.00%

注／標本誤差の表の見方

標本誤差とは…今回のように全体（母集団）の中から一部を抽出して行う標本調査においては、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあり、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、その誤差を数学的に計算することが可能である。その計算式を今回の調査に当てはめて算出したのが、上記の表である。見方としては、例えば、「ある設問の回答数が 2,435 であり、その設問中の選択肢の回答比率が 60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも ±2.81%以内（57.19～62.81%）である」とみることができる。